
平成22年度予算第二特別委員会質問要旨

○ 局別審査

平成22年3月4日

質問者（質問順）

- 1 中尾智一 委員（民主党）
- 2 福島直子 委員（公明党）
- 3 大山正治 委員（民ヨコ）
- 4 藤田みちる 委員（無所ク）
- 5 大貫憲夫 委員（共産党）
- 6 黒川 勝 委員（自民党）

交 通 局

局 別 審 査

1 中 尾 智 一 委員（民主党）

1 平成22年度予算案について

- (1) 「市営交通5か年経営プラン」の「仕上げの年」として位置づけた22年度予算編成を終えた率直な所感について、伺いたい。
- (2) 22年度予算案の特徴について、伺いたい。

2 費用削減について

(1) 地下鉄の保守業務の効率化

ア 地下鉄保守業務を効率化するとは、具体的にどのような業務を委託から直営化するのか。

イ 直営化によって人件費等が増えることは無いのか。職員が増えないのなら、どのような工夫を行うのか。

ウ 直営化を拡大することによって、経費面でどの程度効果があるのか。また、経費の節減以外にどのような効果を期待しているのか。

(2) バス車両整備の効率化

ア バス事業については、車検の直営化の拡大を行うようだが、職員の増加によって人件費等が増えることが無いのか。また、増えないのなら、どのような工夫を行うのか。

イ その工夫によって、経費面でどの程度効果があるのか。また、経費の節減以外にどのような効果を期待しているのか。

(要望) 後の世代への技術継承のためには、新しい人材の採用も必要である。早期の採用再開を要望する。

3 バス・地下鉄の利用者サービスの強化について

- (1) 22年度予算案では、バスの乗車料収入について、定期券と定期券以外とで、それぞれいくら見込み、前年度との比較ではどうか。

- (2) 21年度末に多くの利用者があるバス共通カードを廃止し、「パスモ」等のICカードの利用促進を図ると聞いているが、利用者への影響等はないのか。
- (3) バスポイントの有効期間を1か月とした理由は何か。
- (4) 「シニアパス」の発売の狙い及び発売状況はどの程度か。
- (5) 22年度予算では、地下鉄の乗車料収入について、定期券と定期券以外とで、それぞれいくら見込み、前年度との比較ではどうか。
- (6) 地下鉄事業においても、「パスモ」等のICカードを利用したサービスの拡大を図れないのか。

4 ホリデーエコ得チケットについて

- (1) ホリデーエコ得チケットを発行する目的は何か。
- (2) ブルーラインでは導入せず、グリーンラインに限定した理由と販売期間を限定した理由は何か。
- (3) グループでの利用ということだが、チケットはどのような形態で、どこで販売していく予定か。
- (4) 割引率の高い乗車券であるため、1人で利用する場合でもグループを装うなど不正乗車が考えられるが対策は考えているのか。
- (5) 周辺商業施設のサービスとの連携とは、どのような内容を予定しているのか。
- (6) ループバスを導入して、どのような効果を狙っているのか。また、どのような運行計画を考えているのか。
- (7) 運行期間を区切っているが、継続して運行することは考えていないのか。

5 路線バス事業の強化について

- (1) 生活支援バスを運行する趣旨は、どのようなものか。
- (2) 現在実施している2つの地域での反応はどうか。
- (3) これまでの利用状況は、どのようになっているのか。また、採算は取れているのか。
- (4) 今後、利用者増に向けた取組として、どのようなことを行うのか。

(5) 22年度には、1路線拡大するということだが、新たに運行する地域の選定はどのようにしていくのか。

(6) どのような効果を狙って、急行バスの路線新設をしようと考えているのか。

6 人事評価について

(1) 職員の意欲を高めるために、どのような仕組みを考えているのか。

(2) 業績手当をどのように支給するのか。

(3) 業績手当を支給するにあたって、どのようにして評価の公平性を保つのか。

(4) 評価される側が、納得できる評価方法が必要だと思うが、どうか。

2 福島直子委員（公明党）

1 改善型公営企業の取組について

- (1) 「市営交通5か年経営プラン」の進捗状況と現時点の評価について、伺いたい。
- (2) 改善型公営企業の「仕上げを行う年」に向けた経営課題は何か。
- (3) 一般職員の職種別平均年齢はどのようになっているのか。
- (4) バス事業、地下鉄事業それぞれの年齢構成は、どのようになっているのか。
- (5) 正規職員の新規採用再開に向けた課題と取組について、伺いたい。

2 営業推進本部の設置について

- (1) 「営業推進本部」を設置する機構改革の内容とねらい、また、どのような成果を期待しているのか。
- (2) 営業推進本部では、民間のノウハウを活かせる体制づくりをすすめていく必要があると思うが、どのように取り組んでいくのか。
- (3) 本市は観光コンベンション都市としての取組を進めているが、交通局もその一翼を担って貢献することが必要と考えるが、どうか。

3 横浜駅B1コンコース開発について

- (1) 横浜駅B1コンコース開発の賃料収入は、平年でどの程度見込んでいるのか。また、高速鉄道事業の資産活用収入全体に占める割合はどの程度か。
- (2) 横浜駅B1コンコース開発における、交通局の整備内容及び費用は、どのようになっているのか。
- (3) 店舗整備に合わせ、広告などの収益事業の展開も進めるべきだと考えるが、どうか。
- (4) 開業までのスケジュールはどうなっているのか。
- (5) 横浜駅B1コンコース開発を契機として、横浜駅の案内サインの更なる充実を図るべきと考えるが、現状の改善状況と今後の取組について、伺いたい。
- (6) 今回の開発エリアに、愛称をつける考えがあるのか。

4 地下鉄の安全対策について

- (1) 安全な運行の確保に向けた具体的な取組について、伺いたい。
- (2) 開業から30年以上経過しているブルーラインの施設や設備は、どのような状況にあるのか。
- (3) 施設や設備の改修・更新に関して、22年度はどのような事業を考えているのか。また、今後の計画的な事業はどのようなになっているのか。
- (4) 工事の実施にあたり、どのような考え方で優先順位を決めているのか。

5 市営バスの環境対策について

- (1) 低公害バスの導入状況はどうか。
- (2) 電気式ハイブリッドバスはどのような効果があるのか。
- (3) 今後の導入の予定はどのようなになっているのか。
- (4) ディーゼルバスにバイオ燃料を使用すると聞いているが、エンジンの仕様などに変更は必要ないのか。
- (5) バイオ燃料を利用するにあたっての課題は何か。また、22年度はバイオ燃料車を何台導入するのか。
- (6) 公営企業として、今後も積極的に環境対策に取り組んでいくべきと考えるが、今後の決意を伺いたい。

6 急行バスの拡大について

- (1) 現在運行している、急行バスの路線数とその利用状況はどうか。
- (2) お客様からの声は、どのようなものがあるのか。
- (3) 急行路線の課題は何か。
- (4) 22年度は新たに10路線で急行バスを実施することだが、その趣旨はどのようなものか。
- (5) 停車バス停の考え方は、どのようなものか。
- (6) 今後、中区においても急行バスを導入する予定があるのか。

3 大山正治委員（民ヨコ）

1 経営改革について

- (1) 就任以来、これまで取り組んできた経営改革の成果はどうだったのか。また、今後はどのようなことに取り組んでいくのか。
- (2) トップとしての局長の経営改革の思いを、現場の職員にどのように伝えているのか。また、その思いに対しての現場職員の理解、実践などをどのように捉えているのか。
- (3) 局長は、直接現場に出向いていると聞いているが、これまでどれくらい現場に足を運んだのか。また、現場に足を運ぶことにより得た気づき・手ごたえは、どのようなものがあったのか。

2 職員の意識改革について

- (1) バス添乗調査や駅評価の結果を見ると、営業所や駅によって差があるようだが、調査結果をどのように受け止めているのか。
- (2) 接遇態度や規律の遵守については、まだ不十分と考えるが、その原因はどこにあると考えているのか。
- (3) 現場職員に、局長の思いを浸透させていくため、今後、どのような取組が必要と考えているのか。

3 広告料収入について

- (1) 地下鉄の車内及び駅、バスの主な媒体の稼働率は、前年度と比べてどうか。
- (2) いずれの媒体も稼働が低下しているようだが、低下の原因について、どのように捉えているのか。
- (3) 広告の稼働が低下している状況を改善するために、今後はどのような目標を立て改善策に取り組んでいくのか。
- (4) 指定代理店制を採る中で、市営交通の広告の営業を強化するために、どのような取組を行っているのか。

4 「横濱ベイサイドライン」の収支について

- (1) 「横濱ベイサイドライン」のリニューアル前後の乗車率と収支は、どのようになっているのか。
- (2) 22年度の目標乗車率と目標人員は、どの程度で設定しているのか。
- (3) 22年度の目標を達成し、事業を黒字化するために、どのように取り組んでいくのか。

5 グリーンラインのダイヤ改正について

- (1) 今回のダイヤ改正についての基本的な考え方、実施時期について、伺いたい。
- (2) 朝ラッシュ時間帯の混雑緩和について、また、日中のブルーラインとの乗り継ぎをどのように改善するのか、具体的な内容を伺いたい。
- (3) 東急線との乗り継ぎの改善や最終電車の繰り下げについても実施するとあるが、その具体的な内容を伺いたい。
- (4) グリーンラインの改正内容は分かったが、ブルーラインのダイヤ改正を行うつもりはないのか。

6 グリーンライン沿線のバス路線について

- (1) グリーンライン開業により、影響のあるバス路線の利用人員は、どの程度減少したのか。
- (2) グリーンライン沿線のバス路線の20年度の収支はどうか。
- (3) 収支改善策はどのように考えているのか。

4 藤田みちる 委員（無所ク）

1 改善型公営企業としての経営の基本姿勢について

（１）改善型公営企業としての基本的な経営姿勢について、どのように考えているのか。また、今後の方向をどのように考えているのか。

（２）22年度予算案における「事業の選択と集中」や「収支均衡・黒字計上」は、公営企業としての公共性と矛盾しないのか。

（要望）利益追求のみの経営ではなく、収支均衡による持続可能な経営とともに、公共交通としてのネットワークの確保や環境負荷の低減など、公共性に基づきバランスの良い経営を行っていただきたい。

また、特にバス事業について、厳しい状況が見込まれる中ではあるが、公営企業として交通不便地域を解消することは大切な役割であり、赤字路線であってもさらに工夫を重ね、維持できるようお願いしたい。

2 利便性の向上や増収策等について

（１）沿線資源の活用において、近隣の地域の団体や公共施設との連携を展開すると良いと考えるが、どうか。

（２）地下鉄とバスの事業間の連携について、どのように取り組んでいくのか。

（３）ハマエコカードの現在の申込状況は、どのようになっているのか。また、今後、会員獲得のために、どのように取り組んでいくのか。

（４）シニアパスについて、今後も継続していくのか。

3 コスト削減について

（１）現在のバス事業において、人件費比率はどのくらいか。

（２）現在の人件費比率について、どのように考えているのか。

（３）職員の意欲向上と、人事給与制度の改善が予定されているようだが、具体的にどのようなものか。

4 自動車事業における安全対策について

(1) 現在、ドライブレコーダーは、何台設置されているのか。また、今後の導入計画は、どのようになっているのか。

(2) ドライブレコーダーを活用して、どのように安全対策につなげるのか。

(要望) 横浜市民に公平性を欠くことの無いよう、思いやりと市民の目線で公共交通施策を実行するよう横浜市に要望する。

1 地下鉄の安全対策について

- (1) 駅ホームドア導入前後の事故件数と、ホームドア設置後の安全対策は、どのようなになっているのか。
 - (2) トンネル内で事故や火災があった場合の対応は、どのようなになっているのか。
 - (3) 異常時の対応を考えると車掌を配置すべきだと考えるが、どうか。また、車掌を配置しない理由はコストだと思うが、安全よりもコストを優先させるといふことか、見解を伺いたい。
 - (4) 駅業務の委託化により安全対策を心配しているが、ホームでの安全対策は、どのようなになっているのか。
 - (5) 異常時の対応についても、業務委託を受けた受託業者が対応することになっているのか。
 - (6) 駅業務については、ノウハウを蓄積した者が行うべきと考えるが、どうか。
 - (7) 本来、請負業務は受託業者がすべて完結しなくてはならず、異常時に受託業者の従事者が、交通局職員の指示・命令に従うということは、偽装請負にあたりと考えるが、どうか。
 - (8) 乗客の安全を守るのは基本的な仕事であり、基本的な仕事で指揮・命令系統があるということは、偽装請負にあたりと考えるが、どうか。
 - (9) 交通局が行っている駅業務委託は、職業安定法施行規則第4条の労働者供給事業に該当すると考えるが、どうか。
 - (10) 職業安定法施行規則第4条第1項第4号をみると、駅業務委託は、労働者供給事業に該当すると考えるが、どうか。
 - (11) 駅業務委託は、偽装請負であり労働者供給事業に該当すると考えるが、改めて見解を伺いたい。
- (要望) 安全を守るのにあたって大切なものは人だと思う。そのためにも、交通局が直接雇用を行い、安全対策を蓄積して、乗客の安全を守ることが必要だと考えるので、ぜひ検討していただきたい。

1 平成22年度予算概要について

- (1) 「市営交通5か年経営プラン」の4年目として、「仕上げの年」と位置づけた、22年度の経営の基本的な考え方を伺いたい。
- (2) バス事業について、収入の減少傾向が続いていることの原因について、どのように分析しているのか。
- (3) 中長期的な見通しについて、試算しているのか。また、その状況はどうなっているのか。
- (4) バス事業について、21年度の乗車料収入見込みと、22年度予算案の収入の考え方について、伺いたい。
- (5) 収入確保に向けたこれまでの取組をどのように評価しているのか。
- (6) 限られた収入の中でコスト削減はどこまで進んでいるのか。また、今後収入が減少した場合、更にコスト削減を続けられるのか。
- (7) 人件費の削減に対する考え方について、伺いたい。
- (8) バス事業において赤字が続いている路線の対応は、どのように行うのか。
- (9) 22年度のバス事業の増収策について、具体的にどのように取り組むのか。
- (10) 22年度の黒字達成に向けた局長の決意を伺いたい。

2 収入確保のための取組について

(1) 高速鉄道事業の資産活用・駅ナカ事業

- ア これまでの資産活用の内容について、伺いたい。
- イ 22年度の資産活用の取組内容と収入増の見込みについて、伺いたい。
- ウ 横浜駅B1コンコース開発の出店内容とその効果について、伺いたい。
- エ 今後の積極的な資産活用を、どのように進めていくのか。

(2) 広告事業

- ア 地下鉄の広告料収入について、22年度予算案を前年度と比べて、大幅に減らしているのはなぜか。
- イ 21年度の他都市の収入状況は、どのようになっているのか。

ウ 広告料収入を確保するために、22年度はどのような対策を考えているのか。

3 交通事業における国際化の対応について

- (1) 「あかいくつ」と「横濱ベイサイドライン」では、外国人を受け入れるために、どのような取組を行っているのか。
- (2) 「あかいくつ」は、ホームページに外国語の表記が無いようだが、今後、対応すべきと考えるが、どうか。
- (3) 市バス・地下鉄における外国語案内の現状は、どのようになっているのか。
- (4) バス停に外国人向けの表記がローマ字しか無いのはなぜか。
- (5) 広告付き上屋においては、外国語の表記は可能と思われるが、どうか。

4 接遇向上について

- (1) 交通局に寄せられる「お客様の声」は、今年度どのくらいあったのか。
- (2) お客様の声の内容と、それが事業運営にどう活かされているのか。
- (3) お客様満足度向上において、接遇マナーの向上は重要な要素であると考えますが、今まで、マナーの向上に取り組んできたのか。
- (4) お客様への対応の状況は、どのように検証しているのか。
- (5) 22年度は接客マナーの向上に向けて、どのように取り組むのか。